

体験！模擬授業

栄養学科

地域の食材と食品学

教授 加藤 淳

北海道は食料自給率（カロリーベース）が200%を超えており、日本における食料生産の重要な拠点となっています。私たちの健康を維持するうえで欠かせない栄養素は、毎日の食事から摂取されています。北海道ではどのようなお米やじゃがいもが作られていて、それはなぜおいしいのか、そこにはどのような成分が含まれていて、私たちの健康にどのように関わっているのかについて、一緒に考えてみましょう。

看護学科

①感染症の脅威から人々を守ろう～衛生的手洗いをやってみよう！～

助教 鈴木 朋子

古来より感染症は人々に大きな脅威をもたらしてきました。野口英世や北里柴三郎など先人たちは感染症の撲滅のため、様々な研究を進めてきました。今日ではそうした医科学の進歩と衛生水準の向上により、多くの感染症が克服されてきました。しかし、新興・再興感染症と言われる AIDS、エボラ出血熱、鳥インフルエンザなどの危機や、施設内での感染が社会問題になっています。それら感染症の予防策として、「スタンダードプリコーション（標準予防策）」というものがあります。これは看護をするうえで基本となる知識と技術なので一緒に学びましょう。

②「保健師の仕事を紹介します」

教授 播本 雅津子

保健師は主に行政機関で働く看護職です。赤ちゃんから高齢者まで、すべての住民の健康管理のお手伝いをします。保健師の保健指導は、一般的な「指導」とは違うもので、保健師と向かい合ったその時に、人々が自分の健康について立ち止まって考え、健康のために行動するための決意表明をする機会です。模擬授業では、保健師の保健指導の実際をご紹介します。

社会福祉学科

「ふつう」って何？

准教授 矢口 明

「障がいのある人」に対応する用語として、「定型発達」という用語が使われることがあります。社会は、定型発達の人にとって暮らしやすくなっていて、障がいのある人たちは、それぞれの障がいのために生きづらさを感じています。障がいのある人が生活する上で困っていることや、ものの見方や感じ方について知り、「ふつう（定型発達）」だと思っている自分と、障がいのある人との間に、どんな違いがあるのかを考えていきます。

社会保育学科

子どもの育ちと保育者の役割～社会保育学科で学ぶ4年間～ 准教授 傳馬 淳一郎

目をキラキラと輝かせた子どもたちの毎日は、ワクワクとドキドキの連続です。その子どもたちの育ちを支える保育者には、どのような専門性が求められているのでしょうか。

私たち人間は、様々なモノやヒトに出会いながら“社会”の中で育っています。保育所や幼稚園のみではなく、家庭や地域といった様々な視点から保育を学ぶ“社会保育学科”での4年間のをのぞきながら、社会の中で育つ子どもたちについて、一緒に考えてみましょう。